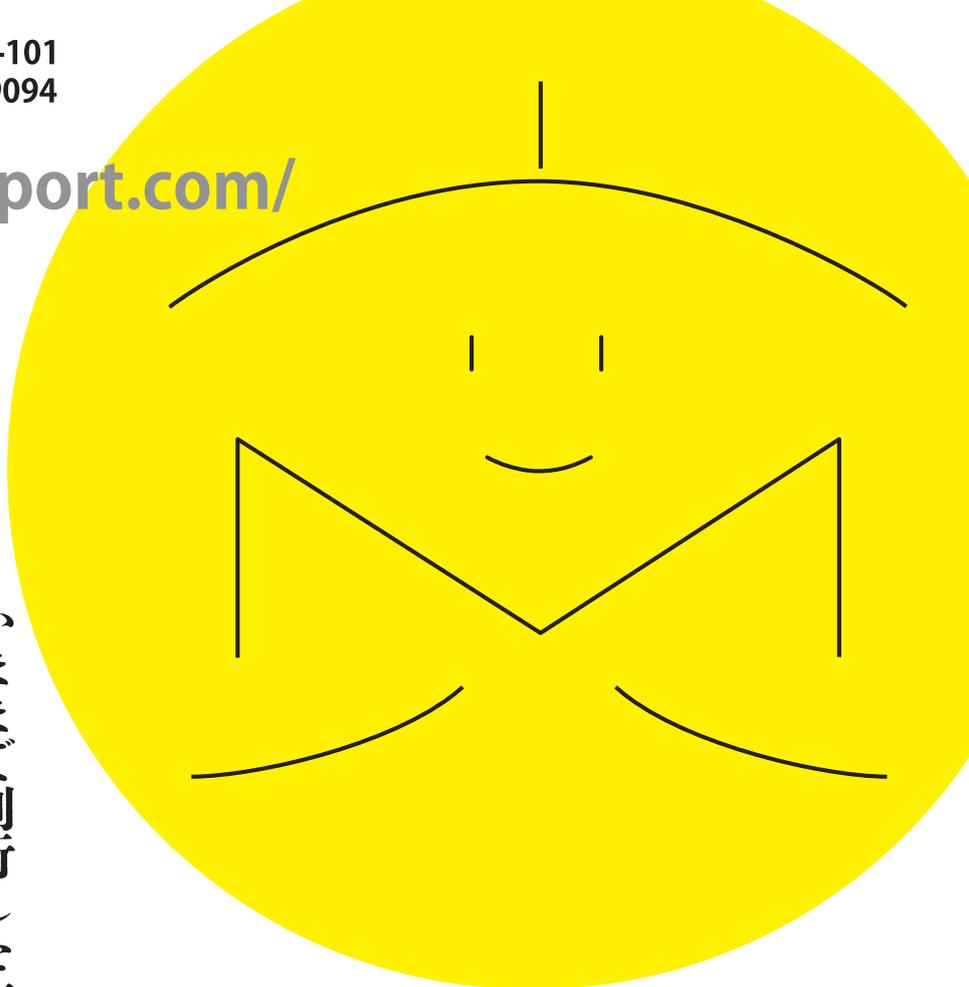


〒114-0001 東京都北区東十条1-18-1,1-101
電話03-5939-9027 ファックス 03-5939-9094
info@bungaku-report.com

<https://bungaku-report.com/>



出版目録 文学通信

いままで刊行した二六冊の本を紹介します

2023.11

デザイン

<https://bungaku-report.com/about/design.html>

インターネット中継・動画制作

<https://bungaku-report.com/about/livestudio.html>

お気軽にお問い合わせ下さい

info@bungaku-report.com

和本図譜

江戸を究める

日本近世文学会編

ISBN978-4-86766-025-6 C0095

B5判変形・並製・176頁

定価：本体1,900円（税別）

2023
刊行

掲載図版200点超！歴史のかなたにある遠いもの...と感ぜられがちな江戸の和本。身近に思えるよう、いままでになかった視点・着眼点から、写真で魅せていく和本のグラフ誌。48のキーワードから和本のいろはが総天然色で楽しめます。江戸時代の本がみなさんにぐっと近づいてくること請け合いです！

また研究の楽しさも伝える「研究のバックヤード」も掲載。7人の研究者に研究者がインタビューを試み、研究者の頭の中や、論文に秘められた面白さが解き明かされます。

間口は広く奥行きは果てしなくを合い言葉に作った、パラパラ眺めてもじっくり読んでも楽しめる、江戸の本と研究についての本。江戸時代の和本を身近に感じ、研究することの醍醐味に触れるために。底なし沼のオアシスはすぐそこです。本書から、はじめの一歩を踏み出してみてください！

本書の担当は以下。[全体統括・はじめに] 木越俊介 [第一部] 天野聡一、有澤知世、門脇大、長田和也、速水香織、松永瑠成 [第二部 interviewee] 揖斐高、久保田啓一、篠原進、延広真治、原道生、深沢真二、古井戸秀夫 [第二部 interviewer] 稲葉有祐、神林尚子、小財陽平、佐藤かつら、高松亮太、長谷あゆす、韓京子 [第二部コーディネーター・用語集] 石上阿希、木越俊介、佐藤至子、丸井貴史。

【目次】

はじめに—間口は広く、奥行きは果てしなく（木越俊介）

第一部 ビブリオグラフ和本

外ノ巻 outside 輝く／目を惹く／装う／厚い／おさめる／摺る／直す／縁どる／組む／交ぜる／白く／うっすら／黒く／彩る／仕掛ける／みひらく／燃る／踊る紙面／叱られる／書き入れる／複製する／見極める／捺す／遣る

内ノ巻 inside 信仰する／占う／詠む／にらむ／遣る／華やぐ／役立つ／嗜む／身体をはる／笑う／謎の生物／文字絵／まねぶ／育てる／切り開く／鑑定する／窮める／夢みる異国／網羅する／ひきうつす／デザインする／江戸の艶／旅する／寿ぐ

第二部 研究のバックヤード

古井戸秀夫氏に聞く●歌舞伎の深層にどう入り込むのか 実証的調査に基づく着想／延広真治氏に聞く●江戸と明治の落語を追って烏亭馬「咄の会」と三遊亭円朝の欧米小説翻案物／深沢真二氏に聞く●パラダイム・チェンジを起こす 文学史・俳諧史を三次元で考える／揖斐高氏に聞く●人間の営みを深く掘り下げる 柏木如亭論はこうして実を結んだ／篠原進氏に聞く●入念な調査と独自の推論で導く「答え」西鶴の創意工夫をどう解き明かすのか／久保田啓一氏に聞く●江戸の人間に近づく材料はふんだんにある 歌壇研究・和歌研究のその先へ／原道生氏に聞く●芝居が見たくなる論文 近松浄瑠璃の作劇の妙／

用語集／参考文献一覧／デジタル画像出典一覧／執筆者一覧



予言獣大図鑑

長野栄俊編・岩間理紀・

笹方政紀・峰守ひろかず著

ISBN978-4-86766-026-3 C0020

A5判・並製・344頁＋カラー口絵

定価：本体2,200円（税別）

2023
刊行



ユルク、愛らしく、謎な獣たち！予言獣はこんなにいた！

150点以上の資料を収めた、本邦初の予言獣大図鑑。

予言獣を再定義し、十二系統に分類。それぞれの名称・別名・収載資料名・所蔵機関・資料形態・予言獣出現日・図版・翻刻・現代語訳を収録。図書館司書・アーキビストである長野栄俊が蒐集してきた資料をもとに編んだものである。

クダン研究を牽引する「クダニスト」、笹方政紀、小説家であり「フォークロア・コレクター」、でもある峰守ひろかず、わが国屈指の「予言獣ハンター」、岩間理紀も加わり、全力で予言獣を追うテキストも収録。

「四人でコツコツ蒐集した資料や事例は、独り占めするのではなく、多くの方と共有したい。そんな思いで作った本書をぜひとも楽しんでほしい。ようこそ、予言獣の世界へ！」

【予言獣の多くは、非合法の印刷物＝かわら版として即席に印刷されたものであり、またはそれらを絵心のない素人が転写したものも多くある。したがって、石燕や国芳、水木の妖怪画との間には絵としての完成度に雲泥の差がある。それでも、庶民がさまざまな思いで描いたこれらの図像には、何とも言えない妙味がある。まずは、ページをパラパラめくり、ユルクったり、愛らしくったり、

謎だったりする予言獣の姿形を眺めてみてほしい。】.....「はじめに」より

【目次】

はじめに一ようこそ、予言獣の世界へ！—（長野栄俊）／序章「予言獣」とは何ものか？—研究史の整理と再定義—（長野栄俊）／[コラム] かわら版と予言獣●長野栄俊／第一部 予言獣資料図鑑／第一「神社姫・姫魚」系 [巨体に輝く宝珠と剣 海より来たる最古の予言獣—] / [コラム] 予言獣フィギュア、いずこに？ ●岩間理紀／第二「件(クダン)」系 [仍って件の如し 人面牛身の短命予言獣] / 第三「くたべ」系 [地獄と浄土が併存する 霊峰に現れた黒い体の人面獣] / [コラム] 転写する予言獣 ●笹方政紀／第四「奇鳥」系 [悪星接近中！ 伊勢神宮を照らす金色の鳥] / 第五「双頭鳥」系 [死の国熊野より霊峰白山へ ヨゲンを届ける両頭のカラス] / 第六「異鳥」系 [どこから来てどこへ行くのか 群集の前に舞い降りた謎の鳥] / [コラム] 謎の地名「真字郡(真重郡)」●長野栄俊／第七「アマビコ」系 [ビコからビエ、ヒユまで ブームを呼んだ三足の異形] / [コラム] 新聞記者と予言獣 ●岩間理紀／第八「山童」系 [山中に現れる三本足の獣人] / 第九「蛭人」系 [アマビコ？ いえアマビトです パリエーション豊かな姿に注目] / [コラム] 「ヨゲンノトリ」繁盛記 ●峰守ひろかず／第十「きたいの童子」系 [人か鬼神か 神田明神に現れた不思議な童子] / 第十一「豊後国に出で候もの」系 [童か女か、はたまた文字絵か 詳細不明の謎の予言者] / 第十二 その他 / [コラム] アマビエ＝変容する妖怪？ ●峰守ひろかず／第二部 予言獣論／件(クダン)の予言 ●笹方政紀／予言から疫病退散へ—刊行物・報道から見るアマビエの属性の変質と定着— ●峰守ひろかず / 「予言獣の探し方」メモランダム—記者のデジタル利活用の事例から— ●岩間理紀 / 繰り返す人魚の流行 ●笹方政紀 / あとがき 参考文献 資料図版出典 / 掲載文献

文化権力と日本の近代

伝統と正統性、その創造と統制・隠滅

徐禎完・鈴木彰編

ISBN978-4-86766-027-0 C0095

A5判・並製・312頁

定価：本体 2,800 円（税別）

2023
刊行

国民国家体制のバリアに覆われてよく見えなかった文学性・芸術性をどう抽出するか。

文学と歴史が交わる領域へのこれからのアプローチの方法。近代の国民国家体制の下で、国民国家の偉観を表象する文化装置として「伝統」が作動するなか、権力や時代に翻弄され統制され隠滅されたり、あるいは迎合することでその「道」の保存・選択を迫られる文化権力という磁場に注目し、文学や芸術が「時代」を生き抜いてきたリアルな文学史・芸能史の一面を照射する。

第一部には主に国家・天皇／皇后・植民地といった近代日本の国家体制や社会構造に根ざした問題を扱う論稿を、第二部にはそうした近代日本社会における、文化権力と伝統・正統性をめぐる個別的な事象・動向を中心的に扱った論稿を収める。

執筆は、徐 禎完、榊原千鶴、宋 錫源、松澤俊二、吳 佩珍、李 鍾淑、鈴木 彰、湯本優希、VAN EWIJK Aafke、平田英夫、菊野雅之。

【目次】

はじめに一本書刊行にあたって ●徐 禎完・鈴木 彰

第1部 近代国家「日本」と文化権力

- 1 近代日本と能楽 文化権力としての芸能と国民国家 ●徐 禎完
- 2 日本の近代化にみる女性と政 朝鮮の女訓書を手がかりとして

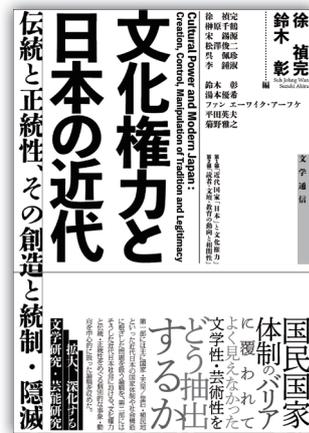
●榊原千鶴

- 3 国民国家の形成における「天皇崇敬」 ●宋 錫源
- 4 勅題の応用とそれによるコミュニケーションの問題 歌会始の外縁に注目して ●松澤俊二
- 5 明治「敗者史観」と植民地台湾 「北白川宮」言説を中心に ●吳 佩珍
- 6 日本植民地時代の朝鮮伝統チュムの変化と隠滅 ●李 鍾淑

第2部 読者・文壇・教育の動向と相関性

- 7 織田完之と近代の平将門観 『国宝将門記伝』刊行の前提、画期としての明治三十四年 ●鈴木 彰
- 8 明治期の文章活動における文壇とその裾野の相互作用 読者が表現者となるとき ●湯本優希
- 9 子どもの心に訴える国家的英雄の創造と変容 少年の秀吉を中心に ●VAN EWIJK Aafke (ファン エーワイク・アーフケ)
- 10 『日本歌学全書』とその周辺 ●平田英夫
- 11 今・ここにある古典学習から考える「言語文化」を土台にして ●菊野雅之

あとがき 執筆者一覧 索引(人名・書名)



西鶴解析

井口 洋

ISBN978-4-86766-013-3 C0095

四六判・上製函入・316頁

定価：本体 6,000 円（税別）

2023
刊行

構造を解析して主題を闡明すること——。

『西鶴試論』（和泉書院、1991年）で途上であった、主題を析出する新しい読み方を提起する、井口西鶴論の続編。本書で井口西鶴論は完結となる。「作品のどこに感動すべきかを、明快に解き明かされて、その作品のそこに感動した。論文を読んで泣くなどということがあるとは、思いも寄らなかった。」（肥留川嘉子）。本書刊行準備中に急逝した著者を偲び、ゆかりの方々24名による追悼集を掲載し、井口氏の研究、またその時代を鮮やかに映し出す。

【本書について】

著者の井口洋先生は、本書刊行準備中の令和五年二月二十六日、急逝されました。校正は三校まで進んでいました。赤字はまだ多く、刊行が危ぶまれましたが、肥留川嘉子氏（元京都光華女子大学教授）のご助力を仰げることになり、ここに無事に刊行することが出来ました。また本書にはご遺族の井口淳氏ほか、学会その他で先生と親交の深かった方々に追悼文をお寄せいただくことにしました。ご協力いただいた皆様に厚く御礼を申し上げます。生前の刊行が叶わなかったことが悔やまれてなりません。（文学通信編集部）

【目次】

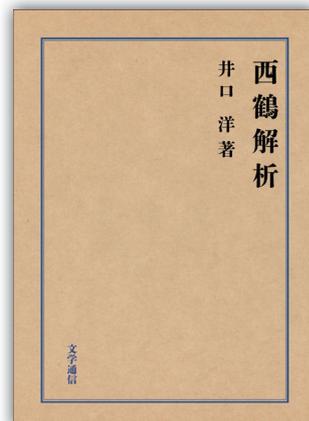
はしがき

引用西鶴作品の本文について

- I 案内しつてむかしの寝所—『懷硯』一の一四解析—
 - II 水浴せは涙川—『懷硯』三の一四解析—
 - III 天狗は家名の風車—『日本永代蔵』二の一四解析—
 - IV 安立町の隠れ家—『万の文反古』二の二四解析一付・伝へまゐらせ候—谷脇さん追悼—
 - V 西鶴も人情を道う（講演）
 - VI 近世文学における忠誠と私情（講座）
- 『永代蔵』の戸口—あとがきに代えて—

追悼

井口 淳／肥留川嘉子／森川 昭／延広真治／西田耕三／松原秀江／矢野公和／小川武彦／蜂矢真郷／内田賢徳／坂本信幸／廣瀬千紗子／山本登朗／服部 仁／宇城由文／中嶋 隆／長島弘明／宗清和子／吉川仁子／飯倉洋一／井上泰至／堀 勝博／川崎 勝／久保瑞代／



なぜ古い本を網羅的に調べる必要があるのか

漢籍デジタル化公開と中国古典小説研究の展開

U-PARL・荒木達雄編

ISBN978-4-909658-64-7 C0098

A5判・並製・192頁

定価：本体2,000円（税別）

2023
刊行

「そんな古臭いものを研究することに何か意味があるのか」。語学、文学、歴史学、社会学、各方面に広く及ぶ本を調べ尽くす意味と、そこに資料のデジタル化がいかに貢献できるかを、第一線の中国古典小説研究者とともに探る。2020年に開催されたオンラインシンポジウム「漢籍デジタル化公開と中国古典小説研究の展開」を書籍化。

小松謙による『『水滸伝』版本研究から何がわかるのか—白話文学における校勘の意義』では、読書とは何かという問題を皮切りに、版本研究からとても多くの情報を引き出すことが可能だということ、そしてそれがもたらす意味について丁寧に解説。その後、荒木達雄、中川諭が、本を調べ尽くすことについて、様々な立場から考えます。ディスカッション、後日行われた討論会も収録し、あらゆる視角からこの問題について考えるための論点を提供しました。付録として「主なデジタル化公開済みの清代までの『水滸伝』諸本」も収録。

【さてはて、数百年前の書物を対象とした研究と、二十一世紀ならではのデジタル化の波とは、一体どのように結びつくのでしょうか。まずは本書の説き明かしをご覧ください。】... はじめにより

【目次】

はじめに 資料デジタル化のさらなる可能性を探るために○上原究

—（東京大学東洋文化研究所）

第1部 『水滸伝』版本研究から何がわかるのか

- 1 『水滸伝』版本研究から何がわかるのか—白話文学における校勘の意義○小松謙（京都府立大学）付録：水滸伝版本簡易分類表
- 2 [上原究一からのコメント] 中原理恵発表 『水滸伝』百二十回本の所在調査と諸本の相違○上原究一
- 3 アジア研究図書館デジタルコンテンツ「水滸伝コレクション」の現状と展望○荒木達雄（東京大学 U-PARL）
- 4 デジタル化資料を用いた中国古典小説研究○中川諭（立正大学）

第2部 ディスカッション

1. コメント①中島隆博（東京大学東洋文化研究所）
2. コメント②一色大悟（東京大学人文社会系研究科）
3. データベースの構築と維持に関するマンパワーと資金／周さんのプログラム
4. 古籍版本の（専用）OCRを開発すればいいのではないか
5. 中国古典小説研究における書き入れ
6. 中国古典小説研究におけるテキストと挿絵の関係
7. 「異同の相」とキャンノン化の問題
8. OCRと中国の画像使用付。Q&A

第3部 講演をめぐる討論会

1. 水滸伝の「近代性」とは
2. 水滸伝の特徴とその影響
3. 百二十回本諸本の調査

付録—主なデジタル化公開済みの清代までの『水滸伝』諸本

あとがき○上原究一



故事成語教材考

樋口敦士

ISBN978-4-86766-015-7 C0095

A5判・並製・344頁

定価：本体2,800円（税別）

2023
刊行



先人たちは「故事成語」とどう向き合い、どう使用してきたか。国語教育的観点から、漢文教材の魅力伝える。「矛盾」「臥薪嘗胆」「狐借虎威」「塞翁馬」等、江戸時代の諸書を通して成立の時代背景を詳しく解説し和漢の用例を多く取り上げ、日本語としての実態に重点を置き解説していくことで、「故事成語」の教材観を深く掘り下げる。教えるヒントになるコラム多数収録。国語教育関係者のみならず、故事成語に関心のある方にもお読みいただける本です。

【本書は「故事成語」の定番教材の考察を主題に掲げているが、成立における時代背景や和漢の用例を取りあげているため、国語教育の関係者のみならず、故事成語関連の一般書籍としてもお読みいただくことも可能である。先人たちが「故事成語」とどのように向き合い、どのように使用してきたのか、読者諸賢にその一端だけでもお伝えすることができれば幸甚の至りである。本書が「故事成語」を取り扱ううえでの一助となることを願ってやまない。】... 序章より

【目次】

序章 「故事成語」の教材観—漢文教材の魅力伝えるために—
第一章 「矛盾考」—漢文教材における反証的観点に照らして—
— はじめに／二 故事成語「矛盾」の成立と受容／三 反証的視点から読み解く漢文教材／四 学習指導要領から見る漢文教材の

「批判力」の要素／五 まとめとして

第二章 「臥薪嘗胆考」—「引用型成語」と「摘要型成語」の観点に照らして—
— はじめに／二 漢籍における「臥薪嘗胆」用例／三 和書における「会稽之恥」用例（近世以前）／四 和書における「臥薪嘗胆」用例（近代以降）／五 まとめとして

COLUMN 高校生の「心を掴む」故事成語・五選

第三章 「江南橋考」—本草学と言語学の観点に照らして—
— はじめに／二 漢籍における「江南橋為江北枳」用例／三 本草書における「橋」と「枳」—「橋枳変異」の考察—／四 和書における「江南橋為江北枳」用例／五 まとめとして

COLUMN 「歴史的仮名遣い」と「文語表現」

第四章 「先從隗始考」—「引用型成語」における人称的観点に照らして—
— はじめに／二 漢籍における「先從隗始」用例／三 和書における「先從隗始」用例／四 その人称的視点をめぐって／五 まとめとして

COLUMN 日本漢詩と漢詩創作指導

第五章 「狐借虎威考」—「摘要型成語」における成立背景の観点に照らして—
— はじめに／二 漢籍における「狐借虎威」用例／三 和書における「狐借虎威」の用例／四 文語「借る」の考察及び漢文教材における観点／五 まとめとして

COLUMN 「小説」の系譜

第六章 「塞翁馬考」—「摘要型成語」における比較読みの観点に照らして—
— COLUMN 「渾沌」変容考

第七章 「燕雀鴻鵠考」—「引用型成語」における文体指導の観点に照らして—

第八章 「三国志考」—故事成語を用いた言語活動への取り組み—

—
あとがき 参考文献一覧 初出一覧 索引（人名・書名）

彰義隊、敗れて末のたいこもち

明治の名物幫間、松廼家露八の生涯

目時美穂

ISBN978-4-86766-020-1 C0095

四六判・並製・376頁

定価：本体 2,500円（税別）

2023
刊行

武士から男芸者に転身——。いかなる架空の物語より、ずっと波乱万丈に富んだ松廼家露八（まつのやろはち）の生涯を追う。その数奇な人生のせい、露八は小説に仕立てたくなる欲望を掻き立てるらしい。

岡本綺堂は『東京の昔話』という芝居台本を作り歌舞伎になった。戸川残花は「露八」という小説を書いた。子母沢寛の「蝦夷物語」にも、山田風太郎の『幻燈辻馬車』にも登場する。村松梢風も、江崎惇も、遠藤幸威も小説にした。吉川英治は小説『松のや露八』を書き、それは前進座により上演された。平岩弓枝が脚本・演出を担当し森繁劇団により舞台にもなった。1990年には露八役を植木等が演じた。近年では、阿井渉介による『慶喜暗殺 一太鼓持ち刺客・松廼家露八』（徳間書店、2022年）が出た。そこで描かれた露八は、本当の姿だったのだろうか。

伊藤痴遊は吉川英治の小説を読み「幫間としての露八のみを知って居て、露八の真骨頂は、解し得なかつたらしく、従て、露八の本態は、捉へ得なかつたのを、甚だ遺憾に思ふ」とした。

幫間として生きながら、戦死した戦友たちの追悼に生涯心をくぶり、死後は戦友たちの墓のある円通寺に亡骸をうずめることを望んだ、旧幕臣の内面を探る旅。初めての松廼家露八・本格評伝誕生！

【露八の生きざまには、たとえ敗者となっても、人間は誇りをもって自由に生きることができるのだという、したたかな力がある。それは、敗者の立場に追いやられても、敗北に沈んだみじめな生涯を送る必要も、ただ敗北を挽回するためだけの、劣等感に汚れた望まない労苦に人生を蕩尽する必要もないことを教えてくれるのだ。】「序 ふたつの魂」より

【目次】

序 ふたつの魂

第一章 水道の水で産湯をつかい

第二章 放蕩息子の遍歴と帰還

第三章 ものがたき二本挿し

第四章 国破れてのちの世

第五章 明治・東京の名物男

第六章 おれはさむらい

おわりに

松廼家露八略年譜 主要参考文献 主要人物索引

※文学通信のサイトで本書に関するコラム連載予定！



百年前の野球交流

インディアナ大学 vs 早稲田大学

錦 仁

ISBN978-4-86766-024-9 C0020

A5判・並製・328頁

定価：本体 2,800円（税別）

2023
刊行

1922（大正11）年の春、早稲田大学が招待したインディアナ大学野球チームは、2勝8敗1引分けと大敗して帰国した。

海を渡り保存されていた870枚余りの写真と選手の日記をきっかけに、スコアシートには残らなかった日米大学野球交流の真実を、100年の時を超えて明らかにする。日米双方の資料を突き合せて野球交流の深部に下りていくと、両校とも共通の世界認識をもって野球交流を行なった事実が見えてくる。

第一次世界大戦が終り、平和な世界が来たかのように見えた。だが、日米開戦間近し、とささやく声が聞こえ始めていた。そういう時代に日米のヒューマニストたちは何を考え、いかなる行動をしたのか。かれらは野球に何かを期待した。野球を通して目指したものは何だったのか。そしてその期待は今日でも古くなってはいない。未発表の写真資料多数収録。渾身のスポーツ・ドキュメント。

【問題は多岐にわたる。本書の章立ては、インディアナ大学の動向を追いつつ、早稲田大学の動向を扱う章が入る、というように少し複雑にしてある。その途中に、エドモンソン教授とエドナ夫人の経歴を調べて、二人の生涯を見つめる。また、三年前にプロテスタントたちが東京で開催した「第八回世界日曜学校大会」につ

いて詳しく述べる。なぜなら、野球交流に関与した人々のなかに、この世界的な宗教フォーラムに関与した人々がいるからだ。早稲田大学の野球交流はキリスト教徒の企画とつながっているところがある。いったい、どういうことなのか。】…… はじめにより

【目次】

はじめに

I 新資料 エドナ・コレクション

II インディアナ大学の日本人留学生

III コダックで撮った小さい写真と葉書大の「横浜写真」

IV インディアナ大学チーム、日本へ遠征する

【コラム1】前年ブルーミントンの試合

【コラム2】招待券と選手のブロマイド

【コラム3】インディアナ大学チームの試合成績表

V エドナ夫人とエドモンソン教授

VI 列車の旅と船の旅、出会った人々

VII 同窓生、早稲田大学、歓迎会を催す

VIII 安部磯雄とコールマン夫人

おわりに

【付録】〔全訳〕「日本野球旅行」(BASEBALL TRIP TO JAPAN) エドナ・ハットフィールド・エドモンソン

主な参考文献

Preface Baseball games in 1922 Japan, Indiana University and Waseda University



REKIHAKU 特集・歴史をつなぐ

国立歴史民俗博物館・天野真志・吉村郊子編

ISBN978-4-86766-023-2 C0021

A5判・並製・112頁・フルカラー

定価：本体1,091円（税別）

発行 国立歴史民俗博物館

発売・編集協力 文学通信

2023
刊行



過去を振り返るために、人びとは様々な媒体を手がかりとし、資料を通して歴史をつないでいる。単にモノを残すだけでなく、資料を媒介して人や地域相互が対話を重ね、社会のなかで歴史をつなぐための模索が多方面で行われているが、果たしてそれはどういう営みののだろうか。その実践や理念から未来を見通す手がかりを考える。

地域歴史資料概論から、多くの事例の紹介まで。さらには、近年の歴史資料保存活動を主導してきた久留島浩、奥村弘両氏のインタビューまで。過去を伝える資料を、未来につなぐことの意味をトータルに考え尽くす。

特集執筆は、奥村弘／久留島浩／天野真志／三村昌司／植松暁彦／安岡健一／相宗大督／田口かおり／中尾真梨子。

特集以外の記事も、好評連載・鷹取ゆう「ようこそ！ サクラ歴史民俗博物館」、石出奈々子のれきはく！探検ほか、盛りだくさんで歴史と文化への好奇心をひらいていきます。

歴史や文化に興味のある人はもちろん、そうではなかった人にもささる本。それが『REKIHAKU』です。年3回刊行！

【目次】

特集鼎談 歴史をとりまく過去・現在・未来（奥村弘・久留島浩・聞き手：天野真志）／1 地域歴史資料概論——なぜ今に伝わり、

これからどう残すのか（三村昌司）／2 ●COLUMN 考古学からみた東日本大震災の文化財レスキュー（植松暁彦）／3 オーラルヒストリー——その歩みと可能性について（安岡健一）／4 ●COLUMN 思い出を集めて分かち合う「思い出のこし」——大阪市立図書館のプロジェクト（相宗大督）／5 作品の「時間 tempo」をめぐる——近現代イタリア保存修復学の挑戦（田口かおり）／6 ●COLUMN 文化財を読み解き、未来へ伝える科学の力——文化財保存科学と水損紙資料（中尾真梨子）／特集をもっと詳しく知りたい人へ おすすめの4冊／たかが歴史されど歴史「もの」をみて「ひと」をしる（上野祥史）／博物館マンガ 第9回 ようこそ！サクラ歴史民俗博物館 資料が博物館にやってくる！（鷹取ゆう）／石出奈々子のれきはく！探検 第9回 山地直産・しごとプライド（石出奈々子）／フィールド紀行 移住持込資料を守り、伝える北海道開拓移住の記憶と記録 第3回（完）●分散する記録を再構築・共有する（工藤航平）／誌上博物館 歴博のイッピン 三種の神器をもつ渡来系弥生人（藤尾慎一郎）／歴史研究フロントライン 歴史文化を次世代へ伝えるネットワーク（天野真志）／EXHIBITION 歴博への招待状 企画展示「陰陽師とは何者か—うらない、まじない、こよみをつくる—」（小池淳一）／SPOTLIGHT 若手研究者たちの挑戦 これは「被害者意識」なのか？ アニメから戦争記憶を考える（アルト・ヨアヒム）／歴史デジタルアーカイブ事始め 第8回 デジタル版『渋沢栄一伝記資料』（橋本雄太）／博物館のある街 東京都多摩地域 帝京大学総合博物館—古代と現代の歴史、そして地域と大学をつなぐ博物館（甲田篤郎・堀越峰之）／くらしの由来記 木綿—世界の繊維革命—（松尾恒一）／研究のひとしづく科学の目でみる歴史資料 第2回●錦絵の色の分析（小瀬戸恵美）／ほか

徳島から探求する日本の歴史 地方史はおもしろい06

地方史研究協議会編

ISBN978-4-86766-021-8 C0221

新書判・並製・272頁

定価：本体1,500円（税別）

2023
刊行

現代社会のその先を作るために。日本の歩みを記憶として地域から残し伝え考えるための本。日本史ファン、研究者必携のシリーズ6冊目。阿波をめぐるのはじまりから現代までを伝える。

第1部「出土資料で描くいにしへの徳島」では発掘調査によって出土した遺構・遺物などについて、専門的な分析を加え、第2部「政治と権力の渦中の徳島」では古代から近世までの阿波国の政治拠点や大名の動向、さらには幕府や藩といった権力とのかかわりについて述べていきます。第3部「徳島を彩るふたつの『色』」では、弥生時代から古墳時代にかけての辰砂の「朱色」と、江戸時代に、藍といえば阿波、阿波といえば藍といわれた「藍色」について考えます。第4部「踊る、巡る、旅をする！」は「阿波踊り」・「四国遍路」・「蜂須賀家の参勤交代」の論考を、第5部「自然と社会に向き合う人々」では、徳島地域を大きく規定する地形的条件について、さらには徳島南部の漁村落落、徳島の花街の場で自然や社会の厳しさとの闘い、その中での暮らしについて述べます。最後の第6部「記録から再考する徳島と人々の歴史」として、古文書・仏像の修理銘・一漁業者が書き記した漁業日誌などの様々な形の「記録」を題材に地域の歴史を考え、ライフヒストリーを読み解きます。

【目次】

第1部 出土資料で描くいにしへの徳島／1 「レプリカ法」が明らかにする徳島の農耕開始期（中村 豊）／2 徳島の銅鐸—北と南—

銅鐸に示された多様性（菅原康夫）／3 金色の甲冑が語る徳島の古墳時代中期（岡本和彦）／4 出土遺物が語る勝瑞城館跡の歴史（重見高博）／第2部 政治と権力の渦中の徳島／5 阿波国府設置前夜の社会構造（藤川智之）／6 嘉吉の乱と阿波細川氏、乱後の赤松氏と阿波—「上月文書」の伝来に関わって（山下知之）／7 戦国末期の阿波—三好・長宗我部氏の抗争と織田信長（森脇崇文）／8 徳島藩の転キリシタンとその一族の行く末（板東英雄）／第3部 徳島を彩るふたつの「色」／9 朱の生産と流通（向井公紀）／10 阿波藍発展の光と陰（宇山孝人）／11 阿波藍の衰退と「精藍」事業の顛末（立石恵嗣）／第4部 踊る、巡る、旅をする！／12 徳島城下の盆踊り（高橋 啓）／13 四国遍路の源流—海辺の巡りから八十八か所への転回（長谷川賢二）／14 大名の旅—徳島藩蜂須賀家の参勤交代（根津寿夫）／第5部 自然と社会に向き合う人々／15 徳島藩の御林と地域—御林番人の文書から（町田 哲）／16 徳島藩の吉野川治水事業（高田恵二）／17 「五反ならし」運動に立ちあがった「おんなたち」—幕末・維新 民衆と米と日常と（松本博）／18 花街のストライキー民衆の「まなざし」と抗う女性たち（佐藤正志）／第6部 記録から再考する徳島と人々の歴史／19 「忌部の契約」の謎—「御衣御殿人契状」と阿波忌部氏長者（福家清司）／20 阿波の仏像を残す・伝える—史料としての修理銘（須藤茂樹）／21 福岡に移住したある遠洋漁業漁師の物語—漁業日誌とライフヒストリーからみた高度経済成長期／（磯本宏紀）



なんで日本研究するの？

シュミット堀佐知編

ISBN978-4-86766-019-5 C0036

A5判・並製・304頁

定価：本体 2,400円（税別）

2023
刊行



9人の日本研究者たちが「なんで日本研究するの？」という問いに答える。

第1部は「言葉の壁・方法論の谷・技術という橋」。人文学研究における英語の有用性と、人文学研究者が英語という「言語の壁」を乗り越えるためのヒントが多数含まれる。第2部は「エンパワーメントとしての知の創造」。知の創造は、社会的弱者にとってのエンパワーメントになり得るのだ。第3部「周縁的なものに光をあてる」は前近代日本の文化が決して現代社会と切り離されてはいないということを感じさせる。第4部「日本とアメリカのあわいで」は、日本とアメリカのあわいに佇み、2つの文化と言語の間で揺れ動く自己について省察がふくまれる。日米アカデミアの間にそびえる、言葉・文化・政治の壁を飛び越えるために。オープンな対話の未来のために。これからの日本研究のための重要な書。バイリンガル（日本語・英語）出版。執筆は、シュミット堀佐知、佐々木孝浩、日比嘉高、江口啓子、マーク・ブックマン、セツ・シゲマツ、末松美咲、クリストファー・ローウィ、ディラン・ミギー。

「日本研究の国境を超えた新しいフィールドが形成され、次の章が今まさに開かれようとしている。意欲あるものはこの刺激的な瞬間に立ち会うべきである。この本のなかにも多くの裂け目がある。

る。しかし、その裂け目からこそ、日本と日本をふくむ世界をリアルにとらえ直すまざしが生み出されてくるのだ。」（紅野謙介）

【目次】

はじめに ●シュミット堀佐知

第1部 言葉の壁・方法論の谷・技術という橋

01 私はなぜ海外に日本の書物文化を発信するのか ●佐々木孝浩（慶応義塾大学・斯道文庫）

02 なんで、どうやって私は「英語でも」研究をするようになったのか ●日比嘉高（名古屋大学）

03 私は「変」じゃない—私が日本研究する理由 ●江口啓子（豊田工業高等専門学校）

第2部 エンパワーメントとしての知の創造

04 アメリカ人障害者として日本で暮らすこと—複合的な障壁と非排他的な想像性 ●マーク・ブックマン（東京大学）

05 白人性と日本研究 ●セツ・シゲマツ（カリフォルニア大学リバーサイド校）

第3部 周縁的なものに光をあてる

06 世界とつながる日本古典文学—物語の継承と再創造から ●末松美咲（名古屋学院大学）

07 テキストと物語をつなぐ日本文学 ●クリストファー・ローウィ（カーネギーメロン大学）

第4部 日本とアメリカのあわいで

08 なんでアメリカで日本古典文学研究するの？ ●シュミット堀佐知（ダートマス大学）

09 根無し草たちの日本研究—知の大成としての書物・言語・国境の関係について ●ディラン・ミギー（名古屋大学）

おわりに ●シュミット堀佐知

デジタルヒストリーを实践する

データとしてのテキストを扱うためのビギナーズガイド

ジョナサン・ブレイン、ジェーン・ウィンターズ、サラ・ミリガン、マーティ・スティア著
大沼太兵衛、菊池信彦訳

ISBN978-4-86766-022-5 C0020

A5判・並製・264頁

定価：本体 2,700円（税別）

2023
刊行

デジタルなアプローチをこれから進めたい歴史研究者のために。大規模なテキストデータをどう扱っていけばいいのか。歴史研究におけるデジタルツールおよびその技術を利用するための実践的な入門書。

冒頭で「デジタルヒストリーの文脈」としてその歴史を解説。以降、研究課題の設定から、デジタルプロジェクトの始め方、プレーンテキストと構造化テキスト（XML）の処理方法、プロジェクトの管理の方法、データをどう可視化するか、など研究のライフサイクル全体を視野に収めた解説を行います。また今回の日本語版では、補論「構造化テキストの構造を活かした処理」を収録し、一歩進んだテキストデータの扱い方についても解説しました。

これからのデジタルヒューマニティーズあるいはデジタルヒストリーの方法論の「民主化」のために。歴史研究者だけでなく、文学研究ほか、人文学研究者必携の書です。

【目次】

はじめに 目的／構成

第1章 デジタルヒストリーの文脈

第2章 研究課題を設定する

第3章 デジタルプロジェクトの始め方

第4章 テキストを扱う（1）：非構造化テキスト

第5章 テキストを扱う（2）：構造化テキスト

第6章 デジタルヒストリーのプロジェクトを管理する

第7章 データの可視化

第8章 デジタルヒストリーのこれから

確認テストの解答例

付録1：データの入手方法

付録2：コマンドラインのレシピ

付録3：正規表現

用語集 参考文献 図版一覧 表一覧

訳者あとがき

補論～構造化テキストの構造を活かした処理～

（小風尚樹・永崎研宣）

【コマンドライン編】grep 検索の得手不得手／XMLの解析（パース）／Xmlstarletのインストール／パースによるXML検索の簡単な例／Windowsでのコマンドラインの色々

【プログラミング編】元データの確認／正規表現を用いたデータセット中の男女比の算出／女性の職業一覧を多い順に並べ替える／おわりに



村上春樹研究

サンプリング、翻訳、アダプテーション、批評、研究の世界文学

横道 誠

ISBN978-4-86766-018-8 C0095

A5判・並製・400頁

定価：本体 3,000円（税別）

2023
刊行

新しい村上春樹をめぐる文学史のために。

旧来の作品研究を大きく乗り越えていくにはどうしたらよいか。

本書は村上文学をサンプリング、翻訳、アダプテーション、批評、研究からなる、独特の世界文学的構造体として提示する。

先行する作家との関係性、村上自身の渡独体験や作品の外国語訳・映像化作品、さらには「当事者批評」「健跡学」などの視点を導入することで、どのような風景が見えてくるのか。村上作品を取りまく文学的諸現象のポリフォニーは、果たしてどのように聞きとれるのか。刺激的な書。

【村上と世界中の読者を結ぶ媒質は、どのようなものなのだろうか。そこには村上作品の翻訳だけでなく、映像化作品や、村上の影響を受けた創作物、さらには村上に影響を与えた創作物、さらには村上とその作品に関する批評や研究も含まれるというのが、筆者の考え方だ。そして、その全体が村上春樹の作品を世界文学にしているという見解を提示する。】……「序」より

【目次】

序 ポリフォニーを志向する研究書

I 「大江・筒井・村上」が結ぶ星座

第一章 大江健三郎の「ファン」としての村上春樹

第二章 村上が「好きな作家」としての筒井康隆

II 海外体験と外国語訳

第三章 渡独体験を考える——「三つのドイツ幻想」と「日常的ドイツの冒険」

第四章 『国境の南、太陽の西』とその英訳、新旧ドイツ語訳

第五章 『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』の八つの翻訳（英訳、フランス語訳、ふたつの中国語訳、ドイツ語訳、イタリア語訳、ロシア語訳、スペイン語訳）

III 音楽・映画・ポップカルチャー

第六章 音楽を奏でる小説——『ノルウェイの森』を中心とした諸考察

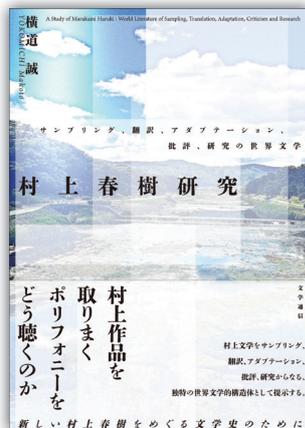
補論 村上春樹と「脳の多様性」——当事者批評と健跡学へ

第七章 自閉スペクトラム症的定型発達の——映画『パーニング』と『ドライブ・マイ・カー』について

第八章 ポップカルチャーの文学的トポス

結語 ポリフォニーを聴くこと

あとがき 文献表



文士村散策

新宿・大久保いまむかし

茅原 健

ISBN978-4-86766-016-4 C0095

四六判・並製・288頁

定価：本体 2,200円（税別）

2023
刊行

新宿・大久保駅周辺は、明治から大正にかけて多くの文学者、ジャーナリスト、社会主義者が住み、その昔、牛が寝そべる牧場がある、のどかな郊外の文士村だった。

著者自身もそこで生をうけ、戦前戦中期の少年時代を過ごした。藤村、独歩、落葉、秋骨、葉舟、八雲、克己、一念、夕暮、綺堂、あるいは大久保文学倶楽部を主宰した著者の血縁・日本評論社の茅原茂などの記録を渉猟し、幻と化した大久保文士村住人の日々を探る。

本書は2004年に日本古書通信社より刊行された『新宿・大久保文士村界限』の増補改訂版である。

【生地へのこだわりと感傷を込めて、私が幼少期を過ごした西大久保周辺、即ち、新宿・大久保文士村に限定して、懐古の情を巡らしたのがこの一文である】… 本書より

【目次】

前書きとしての、新宿・大久保いまむかし

稻荷鬼王神社に一礼

そもそも文士とは

画家、岡落葉の大久保文士村

大久保村から始まった「十日会」

坪内逍遙が賛助人の「大久保文学倶楽部」

茅原茂（蘭雪）のことなど

国木田独歩、鯉井の「大久保会」

大町桂月、絶賛の大久保の躑躅

「郊外論」あれこれ

西大久保が終の棲家、小泉八雲

島崎藤村が『破戒』を書いた西大久保の家

オホクポムラに住む水野葉舟

前田夕暮の第二の故郷、西大久保

「武蔵野」の風情が残る戸山ヶ原

幻のテーマパーク戸山ヶ原

大久保文士村界限に流れていた蟹川

夏目漱石『三四郎』の大久保仮寓

郊外を求めて、曾宮一念の「明治年代の大久保」

大久保村のぬし、「大正・昭和戦前の大久保」

『半七捕物帖』、岡本綺堂の「郊外生活の一年」

ハンガリー文学者、徳永康元の「大久保の七十年」

農政問題の研究者、大内力の「百人町界限」

社会主義者、大久保村界限の「屯所」

小暮悠太（加賀乙彦）、戦前の西大久保

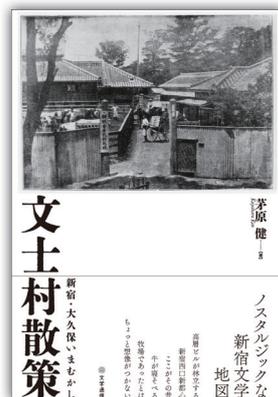
『東京を歌へる』考

旧版 あとがき

『新宿・大久保文士村界限』その後

増補改訂版あとがき

主要人名索引



日本史のなかの中世日光山

忘れられた全盛時代

永井 晋

ISBN978-4-86766-017-1 C0021

四六判・並製・214 頁

定価：本体 2,000 円（税別）

2023
刊行



何をしでかすかわからない日本史！

信仰の山・日光の成立に始まり、中世日光山の全盛時代を頂点とし、鎌倉幕府と共に中世日光山の体制が崩れるまでを叙述した、中世日光山史。群像劇ともいえるその歴史の、全盛時代から衰亡に至る道をたどり直す。

一人ひとりの人物が個性的であり、また宗教者であるが故に信念が強固であり、人脈も広い。ひとたび何か動き出せば、多くの人を巻き込み、結果に向かって突き進んでいく——。

中世日光山という下野国中世史の物語では納まり切らない、日本史がここに。

【ともかく、中世日光山は鎌倉幕府の本拠地坂東にある寺院だよねと確認したくなるほど、自主独立の気風が強い。登場人物も信念を貫くから面白いし、それ故に、鎌倉幕府を中心に考えていくと、枠組みから外れた行動が目につく。日光は何をしでかすかわからないから面白いなと思っていたら、本書の目論見は成功と考えている。】……「おわりに」より

【目次】

系図集

1 宇都宮氏とその縁者 2 大方氏系図 3 延暦寺本覚院相承系図（『門葉記』） 4 九条家系図 5 親王將軍系図 6 天台三味流血脈

日光山歴代別当（32代まで）

はじめに 中世日光山、忘れられた全盛時代

第一章 信仰の山日光と宇都宮氏の誕生—古代～平安時代

第一節 信仰の山日光の成立

第二節 平安文化の光と影

第三節 宇都宮氏の登場

第二章 信仰と勢力の分離—鎌倉時代前期

第一節 鎌倉幕府草創期の宇都宮氏

第二節 鎌倉幕府草創期の日光山

第三節 弁覚の日光山復興

第三章 中世日光山の全盛時代—鎌倉時代中期

第一節 日光法印尊家の時代

第二節 日光山別当源恵の登場

第三節 源恵の時代の日光山

第四節 日光山の全盛時代

第四章 終末期の鎌倉幕府を支えた人々—鎌倉末期～室町時代

第一節 鎌倉時代中後期の宇都宮社と宇都宮氏

第二節 花園天皇護持僧仁澄

第三節 大御堂別当道潤

第四節 鎌倉幕府を護る日光山別当聖恵と宇都宮公綱

おわりに 中世日光山の栄枯盛衰

あとがき 主要参考文献 日光山史年表 図版出典

和学知辺草 (わがくしるべぐさ)

中尾友香梨・白石良夫・中尾健一郎・村上義明編 小城鍋島文庫研究会校注

ISBN978-4-86766-002-7 C0020

A5判・上製・336 頁

定価：本体 6,000 円（税別）

2023
刊行

埋もれていた、もう一つの「うひ山ぶみ」。

知られざる近世の和学手引き書『和学知辺草(わがくしるべぐさ)』、初の翻刻・注釈・現代語訳！

漢学では徂徠学が急速な衰えを見せ、朱子学が盛り返し、異学の禁が発令され、国学では真淵の学風を受け継いだ宣長の学問が完成期を迎えていた、寛政年間（一七八九～一八〇一）。

和学の手引き書が、佐賀の地で作られていた。

著者は「幽林舎散人」。寛政三年秋に官職を解かれ、該書成立の時はすでに六十歳を迎えようとしていたことが、自叙から知られるのみ。該博な学識を満載した本著作から、ひとかどの知識人と推察されるが、年代を考えると、おそらく鍋島直嵩（一七五三～一八三）の主導する歌壇および文芸サロンに身を置いた人物であろう。

果たして江戸や松坂の新知識はどう伝えられていたのか。

近世思想史、文学史を知るための必読の書。

執筆は、中尾友香梨、白石良夫、進藤康子、大久保順子、亀井 森、土屋育子、中尾健一郎、沼尻利通、日高愛子、村上義明、二宮愛理、脇山真衣、（翻字）三ツ松誠、田中圭子、中山成一。

【目次】

埋もれていたもう一つの「うひ山ぶみ」——まえがきにかえて（中

【翻刻・注釈・現代語訳】

尾友香梨) 和学知辺草の執筆動機とその背景 (村上義明) 凡例
翻刻と注釈 自叙 凡例 卷之上 (1) 世界の中の日本 (2) 日本、唐土、印度 (3) 和漢帝系の優劣 (4) 日本は武の国、唐土は文の国 (5) 言葉の国、学芸の国、音韻の国 (6) 日本語の文字 (7) 和歌のこと、漢詩のこと (8) 儒者の偏見 **卷之中** (9) 日本の異称 (10) 和漢国土の広狭と制度 (11) 神道の伝授 (12) 神祇官の盛衰 (13) 異国の神道、本朝の神道 (14) 天子と祭祀 (15) 上代神道の盛況 (16) 神道の大意 (17) 神を祭る、神に詔う (18) 人倫の道の和漢の相違 (19) 神道の諸流 (20) 習合の神道 (21) 両部神道 **卷之下** (22) 齋元神道 (23) 唯一宗源神道 (24) 本地垂迹の果て (25) 大黒と恵比須 (26) 儒学の来由 (27) 六経のこと (28) 孔子の評価 (29) 古今の学術の相違 (30) 唐土儒教の流れ (31) いにしえに五行配当なし (32) 五行配当の説 (33) 唐土以外にも教えあり (34) 唐土の学問 (35) 孟子の評価 (36) 本朝学問の始まり (37) 本朝学校の沿革 (38) 本朝学校の普及 (39) 本朝いにしえの学制 (40) いにしえの軍制 (41) 天皇の学問 (42) 古人の強記ぶり (43) 金沢文庫 (44) 本朝宋学の沿革 (45) 本朝陽明学と古学 (46) 漢文訓読略史 (47) 漢文訓読の法 (48) 日本人の漢詩文 (49) 和書を読む、漢籍を読む (50) 書物版刻の盛行 **現代語訳** (白石良夫) 自叙 凡例 (1) ~ (50) あとがき 注釈典拠一覧索引 (人名・書名・事項)

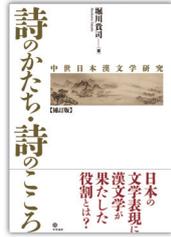


詩のかたち・詩のこころ

—中世日本漢文学研究—【補訂版】

堀川貴司 **2023**
刊行

ISBN978-4-86766-011-9 C0095
A5判・上製・448頁
定価：本体10,000円（税別）



日本の文学表現に漢文学が果たした役割とは。「院政期から鎌倉時代にかけて、日本漢詩を特徴づけるのは、句題詩と無題詩という二つの詠法である——」という一文ではじまる、日本中世漢文学研究における名著の補訂版。

そのときどきに中国文学の新たな潮流を受け止めた日本の漢文学は、それらを血肉として、より広いジャンルへその栄養を供給していく。その営為こそが、それぞれの時代の日本文学の「全き姿」である。本書は、日本の文学表現の源流を丁寧に掘り起こしていくものである。

本書は2006年に若草書房より刊行された『詩のかたち・詩のこころ—中世日本漢文学研究—』の補訂版です。

【句題詩に代表される平安漢文学の成果が、中世文学の豊かな表現の源泉となったように、禅林の文学もまた、次代の文学、仮名草子・俳諧に始まる近世文学の中に入り込んでいく。これには、中世にはなかった要素、すなわち商業出版の発達も大きく貢献している（本書第十八章・第十九章参照）。

このようにそのときどきに中国文学の新たな潮流を受け止めた日本の漢文学は、それをよく咀嚼し（初学書を中心とした読解・注釈）、自分たちの血肉として（詩文の創作）、より広いジャンル

へとその栄養を供給していった。それらの営為を含めた文学活動の総体こそが、それぞれの時代の日本文学の全き姿なのである（本書第五章・第十九章参照）。……「総説」より

【目次】

- 総説 中世漢文学概観——詩を中心に——
- 第一部 院政期・鎌倉時代
- 第一章 句題詩の詠法と場
- 第二章 『本朝無題詩』試論——句題詩との対比から——
- 第三章 『元久詩歌合』について——「詩」の側から——
- 第四章 新古今時代の漢文学——真名序を中心に——
- 第五章 『真俗擲金記』小論
- 第六章 詩懐紙通観
- 第二部 南北朝・室町時代
- 第七章 瀟湘八景詩について
- 第八章 足利直義——政治・信仰・文学——
- 第九章 「等持院屏風賛」について
- 第一〇章 「大慈八景詩歌」について
- 第一一章 絶海中津小論
- 第一二章 『狂雲集』小論
- 第一三章 『自戒集』試論——詩と説話のあいだ——
- 第一四章 『三体詩』注釈の世界
- 第一五章 『新選集』『新編集』『錦繡段』
- 第一六章 中世禅林における白居易の受容
- 第一七章 『倒痴集』試論
- 第一八章 こぼれ咲きの花々——禅林ゆかりの小作品集——
- 第一九章 中世から近世へ——漢籍・漢詩文をめぐる——
- 再刊に際しての補足（初版訂正およびその後の研究状況について）
- あとがき 補訂版あとがき 初出一覧 索引

西鶴奇談研究

梁誠允

2023
刊行

ISBN978-4-86766-012-6 C0095
A5判・上製・272頁
定価：本体5,800円（税別）



われわれは西鶴奇談がもたらす感動をどのように説明できるだろうか。

単なる典拠論、素材論を超えて、現代のわたしたちが見失ってしまった、あるいは忘れてしまった様々な表現の層位（可能性）をさぐりながら、西鶴を探る。西鶴は人情世態を描くための表現を新たに獲得しようと、どれほど奮闘していたのか。言葉が織りなす運動に注目して、西鶴奇談の一話一話を詳細に考察する書。

【西鶴奇談では、類似の題材を扱う場合でも、二番煎じのような方法は殆ど用いられていない。問うべきなのは、一話一話における創作の有り方である。すなわち一話ごとに西鶴がどのような問題領域（話題）を開き、そこに同時代の人情世態に関わる問いかけがいかにかに生成しているか。題材の比重が大きい西鶴の奇談において、その現在の意味はどのように見出されているのか。また、西鶴奇談の中には〈同時代の人情世態〉が素直にあらわれてはいない。作品の背後に隠されている当時の現実と、作品として形象化された虚構の世界とはどのように相関しているのか。これらを明らかにすることにより、後代の読者である我々も、創作された奇談世界のどこがどう奇異であり、西鶴は当時の読者に何を感得させようとしたのかを理解できるようになるだろう。

本書では、言葉が織りなす運動に注目して西鶴奇談の一話一話を詳細に考察し、作品の中の不可思議で説明できないものを可能なかぎり明確に説明することで、西鶴奇談の備えている表現の挑発力を再び活動させることをめざす。…「序章」より

【目次】

- 序章
- 第一章 伝承の想像力
- 第一節 『西鶴名残の友』巻三之七「人にすぐれての早道」と狐飛脚伝承
- 第二節 フィクションとしての西鶴説話—『懐硯』巻五之二「明て悔しき養子が銀筥」の虚偽—
- 第三節 『懐硯』巻三之三「気色の森の倒石塔」と「猫と南瓜」—民話の想像力を糸口に—
- 第二章 様式に関する試論
- 第一節 方法としての〈なぞ問答〉—『西鶴諸国はなし』巻一之五「不思議のあし音」の遊戯—
- 第二節 〈欺瞞〉と〈機智〉の継承と創造—『懐硯』巻五之三「居合もだますに手なし」の手法—
- 第三節 〈業〉の深さを描く—『万の文反古』巻三之三「代筆は浮世の間」の因果—
- 第三章 西鶴奇談の位相
- 第一節 『棠陰比事』『彦超虚盗 道譲詐囚』の受容をめぐる—笑話から西鶴を経由して秋成に及ぶ—
- 第二節 『鎌倉比事』『因果の廻会常陸帯』と『諸国因果物語』『二十二年を経て妻敵を打し事』の構想—『大岡政談』『小間物屋彦兵衛伝』の成立前史—
- 第三節 『大岡政談』『小間物屋彦兵衛伝』の成立
- あとがき 初出一覧 索引

未来を切り拓く古典教材

和本・くずし字でこんな授業ができる

同志社大学古典教材開発研究センター・
山田和人・加藤直志・加藤弓枝・三宅宏幸編

ISBN978-4-86766-003-4 C0095

A5判・並製・208頁（フルカラー）

定価：本体1,900円（税別）

2023
刊行



古典を学ぶ楽しさをどう伝えていけばいいのか。

古典を他人事にせず、現代と結びついたものとしてとらえ、少しでも古典に共感できるようにするためにはどうしたらよいか。和本やくずし字を用いた古典教材のあり方を提案する書です。

本書に収録するのは、教科書の古典とは違う、生きた古典の世界を伝えるための、誰もがプリントして利用できる、解答・解説付きのくずし字教材です。多忙を極める教育現場でも使えるよう、なるべく短時間で授業ができるようにしました。ぜひこれらを多くの方に使っていただければと思います。

問題だけでなく、本書は古典教育への新しい切り口を目指すべく、入門編として「古典への誘い方」「和本への誘い方」「くずし字への誘い方」という章立てで、現場から古典教育を再構築していく意欲的な取り組みを紹介します。こちら大いに参加になる基礎知識・実践例を豊富に収録しました。

執筆は、仲島ひとみ／有田祐輔／森木三穂／江口啓子／佐々木孝浩／近江弥穂子／加藤弓枝／加藤直志／飯倉洋一／加藤十握／三宅宏幸／山田和人／永田郁子／岩崎彩香／高須奈都子／永吉寛行／くずし字一覧＝松本文子（字例の墨書）／現古絵合わせカルタ＝谷口悠・上久保咲穂・三田村幸菜・遠藤杏・若井花楠子・西川

実那・稲田香保（二〇二一年度同志社大学プロジェクト科目履修生）・イラスト＝遠藤杏・書写初案＝若井花楠子・書写＝日比野由佳。

【目次】

はじめに——これからの古典教育のために

第1部 入門編

STEP1 古典への誘い方 総論 本当に必要なのかと言わせない古典／実践1 古典世界に誘うための「フック」と「問い」／実践2 古典のSTEAM化——「ものづくり」による学びの実践／実践3 イメージで現代とつなぐ古典／STEP2 和本への誘い方／総論 和本のポテンシャル——教材としての古典籍利用の可能性／実践1 貴重書出前授業が伝えてくれたこと／実践2 古典籍無償貸出プロジェクト「和本バンク」のすすめ／実践3 実際の和本を利用した出前授業／実践4 和本の基礎知識／STEP3 くずし字への誘い方

／総論 なぜ「くずし字教育」が必要なのか／実践1 くずし字を解説して古典学習の旅に出る／実践2 国語科教育にくずし字や和本はどう関わるか——学習指導要領との関連から／実践3 くずし字学習の基礎知識／実践4 古典籍のデジタルアーカイブ利用の一例

／第2部 教材編／初級 地誌・紀行文を読んでみよう！／初級 昔の「桃太郎」を読んでみよう！／初級 昔の「さるかに合戦」を読んでみよう！／中級 百人一首のパロディを読んでみよう！／初級 『百人一首』とそのパロディを読んでみよう！／中級 「天徳内裏歌合」の和歌を読んでみよう！／初級 小袖雛形本を読んでみよう！／中級 江戸時代のパロディを読んでみよう！／初級 『竹取物語』をくずし字で読んでみよう！／初級 看板から文字文化を学ぼう！／初級 昔の謎かけを読んでみよう！／おわりに——未来を切り拓く古典教材へ／付録 くずし字一覧表 現古絵合わせカルタ

東アジアにおける笑話

佐伯孝弘・荒尾禎秀・島田大助・
川上陽介・王 國良・崔 溶澈

ISBN978-4-86766-009-6 C0090

A5判・並製・312頁

定価：本体3,200円（税別）

2023
刊行



新たな進展をもたらす、最新の「笑話」研究。

中国白話文学と日本近世文学の比較研究を

専門とする川上陽介が代表となっははじめた共同研究の成果。佐伯孝弘〈浮世草子〉、荒尾禎秀〈日本語学・書誌学〉、島田大助〈喃本〉、台湾の王國良（中国俗文学・敦煌学・中国文献学・中国古典小説・東アジア漢文学）、韓国の崔溶澈（中国小説）らにより、「東アジアにおける笑話」の諸相を、さまざまな角度から検討し直す。

翻訳は、閻小妹（読本、中国古典小説）、申英蘭（日本近代文学・日中比較文学〈近現代〉・日中韓比較文化）、全怡姪（日本近世文学）。

【目次】

はじめに（川上陽介）

一 笑話をさまざまな角度から検討し直す／二 本書の構成／三 文学研究を志す学生のために

第1章

浮世草子『籠耳』考（佐伯孝弘）

一 はじめに／二 『醒睡笑』の利用／三 作品全体の笑話性
四 『宇治拾遺物語』の利用／五 その他の要素——多様性——
六 おわりに

第2章

『訳解笑林広記』の漢字字体（荒尾禎秀）

一 はじめに／二 調査の資料と方法／三 調査結果と考察／四 『訳解笑林広記』にみる変字法の可能性／五 『訳解笑林広記』の字体の特徴／六 まとめにかえて

第3章

日本の笑話本と東アジアの笑話本 -- 絵の用い方に注目して --（島田大助）

一 はじめに／二 東アジアの笑話本／三 日本笑話と絵／四 笑話の絵本化による文字数の変化／五 草双紙仕立て笑話本の問題／六 まとめ

第4章

『訳解笑林広記』全注釈（九）（川上陽介）

111 拾蟻（蟻を掬い上げる）～120 過橋（橋を渡っているときにクシャミ）

第5章

中国・朝鮮・日本における漢文笑話の発展・伝播とその比較（王國良）（共訳：閻小妹・申英蘭）

一 はじめに／二 朝鮮における漢文笑話の伝播について／三 日本における漢文笑話の伝播について／四 中国・朝鮮・日本における漢文笑話の具体例（1）自慢や見栄（2）虚偽と詐欺（3）妄想・愚昧（4）間違い（5）教養のない、無知な人間を嘲笑う話（6）欲張りすぎて罰が当たった話（7）食欲と色欲（8）物忘れと居眠り／五 結び

第6章

朝鮮時代の漢文笑話本と性笑話の特徴（崔 溶澈）（訳：全怡姪）

一 はじめに／二 朝鮮時代の漢文笑話集／三 漢文笑話集の序・跋文／四 韓国漢文性笑話の特徴／五 漢文性笑話の中韓比較／六 結語

江戸の絵本読解マニュアル

子どもから大人まで楽しんだ草双紙の読み方

叢の会編

ISBN978-4-86766-007-2 C0095

A5判・上製・304頁（巻頭40頁カラー）

定価：本体2,100円（税別）

2023
刊行

桃太郎のライバル柿太郎！ 漢方薬のラブストーリー！

今の「絵本」の形式をもった、子どもから大人まで楽しんだ草双紙（くさそうし）が創り出されたのは、十八～十九世紀。京都・大坂の上方を追いかけ、文化を発展させてきた江戸で、絵と文の総合的な表現による大衆読み物が登場しました。

本書は、その草双紙がどのようなものか、どのような作品があるのか、草双紙から何が読み取れるのか、その世界を味わうための、読解マニュアルです。

全体は4部構成。「Ⅰ 江戸の絵本＝草双紙一本の形と表現方法を知る」では本の形と、草双紙を読むうえで基本となる表現方法を説明。「Ⅱ 絵入り読み物の歴史を知る」では、絵と文の総合的な表現の歴史を解説。草双紙にいたるまで、また草双紙以後の歴史もわかります。「Ⅲ 草双紙作品の作り方・読み方」では、キャラクターや生活・文化などなど、様々な切り口で草双紙がどう作られてきたか、どう読めばいいのかをレクチャー。最後に「Ⅳ 草双紙と現在」。ここでは現在のマンガ・アニメとのつながりや、小学校で草双紙を扱った実践例などを紹介します。

本書一冊で、江戸の絵本の楽しみ方がわかります。

執筆は、黒石陽子、石田智也、内ヶ崎有里子、奥田粹ノ介、加藤康子、

佐藤智子、杉本紀子、瀬川結美、手塚翔斗、檜山裕子、細谷敦仁、森節男。

【目次】

【口絵】おかしく、ほほえましい場面、大集合！

本書の読み方—草双紙の世界へようこそ！

Ⅰ 江戸の絵本＝草双紙一本の形と表現方法を知る

Ⅱ 絵入り読み物の歴史を知る

Ⅲ 草双紙作品の作り方・読み方

1 キャラクター編

2 生活・文化編

3 時間と空間の記号編

4 絵と文のコラボレーション編

5 芸能とのコラボレーション編

6 ヒーローと残酷な表現編

Ⅳ 草双紙と現在

1 草双紙から続くもの『風流魚鳥大合戦』ほか

2 マンガから見る草双紙『〔つわものてから〕』ほか

3 子どもたちに草双紙の魅力を伝える

4 もっと草双紙を楽しむために

資料



古文書の科学

料紙を複眼的に分析する

渋谷綾子・天野真志編

ISBN978-4-86766-004-1 C0021

A5判・並製・240頁

定価：本体1,900円（税別）

2023
刊行



古文書や古記録類に用いられた紙は、果たしてどんなモノなのか。人文学ではなく、古文書を自然科学的に調べていくと、そこから何がわかるのか。

古文書研究に自然科学を結びつける入門として、基礎的な情報を紹介していく「古文書の科学」のガイドブック。古文書に残された痕跡から、肉眼では見えない部分にアプローチする方法を紹介していく、まさに料紙研究の新常識！

第1部では、古文書研究、日本史研究、異分野連携研究という3つの視点から、料紙が注目されてきたそれぞれの背景と経緯を紹介。第2部では、料紙の科学分析について、繊維、添加物、植物材料のDNAの三つを取り上げて解説。第3部では、史料調査と料紙分析の連携によって見込める成果について、第4部は、分析データの記録・保存ツールの紹介や情報基盤との連携の意義、国際的研究にむけての展開の必要性を、事例を交えて考察する。

本書は古文書研究に新たな可能性を見出そうとするものであると同時に、東アジア全体における歴史資料の科学研究へ貢献できる射程を持つものである。

古文書研究のみならず、大学、自治体、博物館、文書館、図書館など歴史資料の研究・保存・継承に従事する方に必携の書。

執筆は、本郷恵子／渋谷綾子／高島晶彦／天野真志／貫井裕恵／山家浩樹／大川昭典／富田正弘／湯山賢一／石川隆二／野村朋弘

／尾上陽介／小倉慈司／中村 覚／山田太造／後藤 真。

【目次】

ごあいさつ（本郷恵子）

はじめに（渋谷綾子）

第1部 古文書料紙への視点

1 古文書研究からの視点（高島晶彦）

2 近世の古文書と料紙研究の可能性（天野真志）

3 異分野連携からの視点（渋谷綾子）

COLUMN 料紙研究を語る

（渋谷綾子・貫井裕恵・天野真志・高島晶彦・山家浩樹

協力：大川昭典・富田正弘・湯山賢一）

第2部 料紙の構造をさぐる

第2部を読む前に（渋谷綾子・天野真志）

1 繊維をさぐる（高島晶彦）

2 添加物をさぐる（渋谷綾子）

3 DNAをさぐる（石川隆二）

第3部 料紙から古文書を読む

1 松尾大社所蔵史料を読む（野村朋弘）

2 陽明文庫所蔵史料による料紙研究の可能性（尾上陽介）

3 マイクロスコープで「読む」（渋谷綾子）

COLUMN 典籍近世写本の調査から（小倉慈司）

第4部 料紙研究を広げる

1 データを記録・保存する（中村 覚）

2 史料の形態データと内容データを関連付ける

—複合的史料研究推進に向けた史料情報統合—（山田太造）

3 世界へひらき、つなぐ（渋谷綾子）

COLUMN 紙資料の「データ解析」が持つ

変革とコラボレーションの可能性（後藤 真）

おわりに（渋谷綾子・天野真志）

用語集 執筆者・協力者一覧

その他の刊行図書 2023.11 現在

それぞれの本の詳細は文学通信サイト [<https://bungaku-report.com/>]、もしくは検索してご覧下さい

	刊行年	ISBN	本体価格
東アジア文化講座・全4冊 [完結]			
はじめに交流ありき—東アジアの文学と異文化交流●染谷智幸編	2021年2月	978-4-909658-44-9	2800円
漢字を使った文化はどう広がっていたのか—東アジアの漢字漢文文化圏●金文京編	2021年2月	978-4-909658-45-6	2800円
東アジアに共有される文学世界—東アジアの文学圏●小峯和明編	2021年2月	978-4-909658-46-3	2800円
東アジアの自然観—東アジアの環境と風俗●ハルオ・シラネ編	2021年2月	978-4-909658-47-0	2800円
デジタル・ヒューマニティーズ関連書			
歴史情報学の教科書—歴史のデータが世界をひらく●後藤 真・橋本雄太編	2019年4月	978-4-909658-12-8	1900円
ネット文化資源の読み方・作り方—図書館・自治体・研究者必携ガイド●岡田一祐	2019年7月	978-4-909658-14-2	2400円
デジタル学術空間の作り方—仏教学から提起する次世代人文学のモデル●下田正弘・永崎研宣編	2019年12月	978-4-909658-19-7	2800円
欧米圏デジタル・ヒューマニティーズの基礎知識●人文情報学研究所監修	2021年7月	978-4-909658-58-6	2800円
人文学のためのテキストデータ構築入門 <small>TEIガイドラインに準拠した取り組みにむけて</small> ●人文情報学研究所監修	2022年8月	978-4-909658-84-5	3000円
デジタルヒストリーを实践する <small>データとしてのテキストを扱うためのビギナーズガイド</small> ●ジョナサン・ブレインーほか	2023年10月	978-4-86766-022-5	2700円
国語教育関連書			
なぜ古典を勉強するのか—近代を古典で読み解くために●前田雅之	2018年6月	978-4-909658-00-5	3200円
国語の授業の作り方—はじめての授業マニュアル●古田尚行	2018年7月	978-4-909658-01-2	2700円
古典は本当に必要なのか、否定論者と議論して本気で考えてみた。●勝又基編	2019年9月	978-4-909658-16-6	1800円
古典教育と古典文学研究を架橋する—国語科教員の古文教材化の手順●井浪真吾	2020年3月	978-4-909658-26-5	2700円
高校に古典は本当に必要なのか—高校生が高校生のために考えたシンポジウムのまとめ●長谷川凜ほか	2021年5月	978-4-909658-36-4	1800円
古典教育をオーバーホールする—国語教育史研究と教材研究の視点から●菊野雅之	2022年9月	978-4-909658-87-6	2700円
文学授業のカンドコロ <small>迷える国語教師たちの物語</small> ●助川幸逸郎・幸坂健太郎・岡田真範・難波 博孝・山中勇夫	2022年7月	978-4-909658-80-7	1900円
# 卒論修論一口指南 ●田中草大	2022年6月	978-4-909658-78-4	1600円
未来を切り拓く古典教材 <small>和本・くずし字でこんな授業ができる</small> ●山田和人・加藤直志・加藤弓枝・三宅宏幸編	2023年3月	978-4-86766-003-4	1900円
故事成語教材考●樋口敦士	2023年7月	978-4-86766-015-7	2800円
文学・歴史・美術・思想			
三島由紀夫は—〇代をどう生きたか—あの結末をもたらしたものに●西法太郎	2018年11月	978-4-909658-02-9	3200円
全訳 男色大鑑〈武士編〉●染谷智幸・畑中千晶編	2018年12月	978-4-909658-03-6	1800円
全訳 男色大鑑〈歌舞伎若衆編〉●染谷智幸・畑中千晶編	2019年10月	978-4-909658-04-3	1800円
紙が語る幕末出版史—『開版指針』から解き明かす●白戸 満喜子・	2018年12月	978-4-909658-05-0	9500円
二代目市川團十郎の日記にみる享保期江戸歌舞伎●ビュールク トーヴェ	2019年2月	978-4-909658-09-8	6000円
江戸の子どもの絵本—三〇〇年前の読書世界にタイムトラベル! ●叢の会編	2019年4月	978-4-909658-10-4	1000円
〈奇〉と〈妙〉の江戸文学事典●長島弘明編	2019年5月	978-4-909658-13-5	3200円
真山青果とは何者か? ●飯倉洋一・日置貴之ほか編	2019年7月	978-4-909658-15-9	2800円
注釈・考証・読解の方法—国語国文学的思考●白石良夫	2019年11月	978-4-909658-17-3	3200円
草の根歴史学の未来をどう作るか—これからの地域史研究のために●黒田智・吉岡由哲編	2020年1月	978-4-909658-18-0	2700円
薩琉軍記論—架空の琉球侵略物語はなぜ必要とされたのか●目黒将史	2019年12月	978-4-909658-20-3	15000円
怪異をつくる—日本近世怪異文化史●木場貴俊	2020年3月	978-4-909658-22-7	2800円

新刊

新刊

新刊

その他の刊行図書 2023.11 現在

江戸初期の香文化—香がつなぐ文化ネットワーク●堀口悟・鈴木健夫・村田真知子編	2020年2月	978-4-909658-23-4	4500円
近世前期江戸出版文化史●速水香織	2020年2月	978-4-909658-24-1	品切れ
江戸中期上方歌舞伎囃子方と音楽●前島美保	2020年2月	978-4-909658-25-8	12000円
「国文学」の批判的考察—江戸のテキストから古典を考え直す●空井伸一	2020年3月	978-4-909658-27-2	11500円
好古趣味の歴史—江戸東京からたどる●小林ふみ子・中丸宣明編著	2020年6月	978-4-909658-29-6	2800円
城壁●榛葉英治・和田敦彦	2020年6月	978-4-909658-30-2	2400円
信長徹底解説—ここまでわかった本当の姿●堀 新・井上泰至編	2020年7月	978-4-909658-31-9	2700円
杞憂に終わる連句入門●鈴木千恵子	2020年6月	978-4-909658-32-6	1500円
読書の歴史を問う—書物と読者の近代 改訂増補版●和田敦彦	2020年8月	978-4-909658-34-0	1900円
説話文学研究の最前線—説話文学会 55 周年記念・北京特別大会の記録●説話文学会編	2020年9月	978-4-909658-35-7	3000円
二十四節気で読みとく漢詩●古川末喜	2020年10月	978-4-909658-37-1	2800円
古典の未来学—Projecting Classicism ●荒木浩編	2020年10月	978-4-909658-39-5	8000円
書誌学入門ノベル! 書医あづさの手控〈クロニクル〉●白戸満喜子	2020年12月	978-4-909658-41-8	1800円
王朝物語の表現機構—解釈の自動化への抵抗●星山 健	2021年1月	978-4-909658-42-5	6000円
近代平仮名体系の成立—明治期読本と平仮名字体意識●岡田一祐	2021年2月	978-4-909658-48-7	7000円
虚学のすすめ—基礎学の言い分●白石良夫	2021年2月	978-4-909658-49-4	1900円
自由律俳句と詩人の俳句●樽見 博	2021年3月	978-4-909658-50-0	2700円
『阿毘達磨集論』の伝承—インドからチベットへ、そして過去から未来へ●高橋晃一・根本裕史編	2021年3月	978-4-909658-51-7	2400円
これからの古典の伝え方—西鶴『男色大鑑』から考える●畑中千晶	2021年3月	978-4-909658-53-1	1900円
軍記物語と合戦の心性●佐伯真一	2021年4月	978-4-909658-54-8	10000円
言いなりにならない江戸の百姓たち—「幸谷村酒井家文書」から読み解く●渡辺尚志	2021年6月	978-4-909658-56-2	1500円
『奥の細道』の再構築●井口洋	2021年11月	978-4-909658-62-3	11000円
たたかう講談師—二代目松林伯円の幕末・明治●目時美穂	2021年11月	978-4-909658-66-1	2500円
読まなければなににもはじまらない—いまから古典を〈読む〉ために●木越治・丸井貴史編	2021年11月	978-4-909658-67-8	1900円
Butoh 入門 肉体を翻訳する ●大野ロベルト・相原朋枝編	2021年12月	978-4-909658-68-5	2200円
無数のひとりが紡ぐ歴史—日記文化から近現代日本を照射する ●田中祐介編	2022年3月	978-4-909658-75-3	2800円
未墾地に入植した満蒙開拓団長の記録—堀忠雄『五福堂開拓団十年記』を読む ●黒澤 勉・小松靖彦編	2022年3月	978-4-909658-71-5	2400円
地域歴史文化継承ガイドブック—付・全国資料ネット総覧 ●天野真志・後藤 真編	2022年3月	978-4-909658-72-2	1600円
日本学の教科書 Handbook for Japanese Studies ●伴野文亮・茂木謙之介編	2022年4月	978-4-909658-73-9	1800円
職業としての大学人 ●紅野謙介	2022年4月	978-4-909658-77-7	1800円
「文壇」は作られた—川端康成と伊藤整からたどる日本近現代文学史 ●尾形大	2022年4月	978-4-909658-74-6	2000円
思い出のとしまえん ●練馬区立石神井公園ふるさと文化館編 小宮佐知子・内田 弘・小林 克著	2022年5月	978-4-909658-76-0	1900円
職業作家の生活と出版環境—日記資料から研究方法を拓く●和田敦彦編	2022年6月	978-4-909658-82-1	2700円
# 卒論修論一口指南 ●田中草大	2022年6月	978-4-909658-78-4	1600円
俳句がよくわかる文法講座 詠む・読むためのヒント●井上泰至・堀切克洋編	2022年8月	978-4-909658-79-1	1900円
人はなぜ神話〈ミュトス〉を語るのか—拡大する世界と〈地〉の物語 ●清川 祥恵・南郷晃子・植朗子編	2022年9月	978-4-909658-85-2	2800円
江戸幕府の誕生—関ヶ原合戦後の国家戦略 ●渡邊大門編	2022年9月	978-4-909658-86-9	1900円

その他の刊行図書 2023.11 現在

それぞれの本の詳細は文学通信サイト [<https://bungaku-report.com/>]、もしくは検索してご覧下さい

増補新版 東北の古本屋●折付桂子	2022年10月	978-4-909658-88-3	1800円	
川瀬巴水探索—無名なる風景の痕跡をさがす●川瀬巴水とその時代を知る会	2022年11月	978-4-909658-90-6	1900円	
〈転生〉する川端康成 I 引用・オマージュの諸相●仁平政人・原善編	2022年12月	978-4-909658-89-0	2700円	
学芸員の観察日記 ミュージアムのうらがわ●滝登くらげ	2023年2月	978-4-909658-93-7	1600円	新刊
家康徹底解説 ここまでわかった本当の姿●堀 新・井上泰至編	2023年2月	978-4-909658-95-1	2700円	新刊
おもろさうし選詳解●島村幸一	2023年2月	978-4-909658-97-5	10000円	新刊
児童雑誌の誕生●柿本真代	2023年2月	978-4-86766-001-0	2800円	新刊
燈謎（とうめい）漢字文化圏文字遊戯の諸相●呉 修喆	2023年2月	978-4-909658-94-4	6000円	新刊
西鶴『誹諧独吟一日千句』研究と註解●中嶋 隆	2023年2月	978-4-909658-98-2	6000円	新刊
源氏物語夢見論●笹生美貴子	2023年3月	978-4-909658-99-9	7000円	新刊
土偶を読むを読む●望月昭秀編	2023年4月	978-4-86766-006-5	2000円	新刊
東アジアの都市とジェンダー 過去から問い直す●小林ふみ子・染谷智幸編	2023年4月	978-4-86766-005-8	2800円	新刊
石牟礼道子と〈古典〉の水脈 他者の声が響く●野田研一・後藤隆基・山田悠介編	2023年5月	978-4-86766-008-9	2800円	新刊
伝統芸能の教科書●藤澤茜編著	2023年5月	978-4-86766-010-2	1900円	新刊
日本史史料研究会ボックス				
新徴組の真実にせまる—最後の組士が証言する清河八郎・浪士組・新選組・新徴組●西脇 康	2018年12月	978-4-909658-06-7	1300円	
新 神風と悪党の世紀—神国日本の舞台裏●海津 一朗	2019年1月	978-4-909658-07-4	1200円	
六波羅探題 研究の軌跡—研究史ハンドブック●久保田和彦	2020年1月	978-4-909658-21-0	1200円	
ここまでわかった戦国時代の天皇と公家衆たち—天皇制度は存亡の危機だったのか？新装版●神田裕理編	2020年7月	978-4-909658-33-3	1350円	
戦国時代と一向一揆●竹間芳明	2021年6月	978-4-909658-55-5	1600円	
幕末大江戸のおまわりさん—史料が語る新徴組●西脇 康	2021年10月	978-4-909658-65-4	1500円	
論考 日本中世史—武士たちの行動・武士たちの思想●細川重男	2022年3月	978-4-909658-70-8	1800円	
REKIHAKU・国立歴史民俗博物館発行				
REKIHAKU 特集・されど歴史●山田慎也・内田順子・橋本雄太編	2020年10月	978-4-909658-38-8	1091円	
REKIHAKU 特集・いまこそ、東アジア交流史●高田貫太・橋本雄太編	2021年2月	978-4-909658-43-2	1091円	
REKIHAKU 特集・日記がひらく歴史のトビラ●三上喜孝・内田順子編	2021年6月	978-4-909658-57-9	1091円	
REKIHAKU 特集・歴史のなかの疫病●福岡万里子・高田貫太編	2021年10月	978-4-909658-63-0	1091円	
REKIHAKU 特集・ファッション×博物館●澤田和人編・吉村郊子編	2022年2月	978-4-909658-69-2	1091円	
REKIHAKU 特集・人工知能の現代史●橋本雄太・澤田和人編	2022年6月	978-4-909658-81-4	1091円	
REKIHAKU 特集・歴史の「匂い」●小倉慈司・高田貫太編	2022年10月	978-4-909658-91-3	1091円	
REKIHAKU 特集・アートがひらく地域文化●川村清志・天野真志編	2023年2月	978-4-909658-96-8	1091円	新刊
REKIHAKU 特集・推定不能 炭素 14 研究がとらえた未知の巨大太陽フレアの謎●箱崎真隆・橋本雄太編	2023年6月	978-4-86766-014-0	1091円	新刊
REKIHAKU 特集・歴史をつなぐ	2023年10月	978-4-86766-023-2	1091円	新刊
地方史はおもしろい・地方史研究協議会編				
日本の歴史を解きほぐす—地域資料からの探求●地方史研究協議会編	2020年4月	978-4-909658-28-9	1500円	
日本の歴史を原点から探る—地域資料との出会い●地方史研究協議会編	2020年10月	978-4-909658-40-1	1500円	
日本の歴史を問いかける—山形県〈庄内〉からの挑戦●地方史研究協議会編	2021年3月	978-4-909658-52-4	1500円	

それぞれの本の詳細は文学通信サイト [https://bungaku-report.com/]、もしくは検索してご覧下さい

日本の歴史を描き直す—信越地域の歴史像●地方史研究協議会編	2021年9月	978-4-909658-61-6	1500円
日本の歴史を突き詰める おおさかの歴史●地方史研究協議会編	2022年12月	978-4-909658-92-0	1500円
徳島から探求する日本の歴史●地方史研究協議会編	2023年11月	978-4-86766-021-8	1500円
玉藻前アンソロジー [全3巻]			
玉藻前アンソロジー 殺之巻●朝里 樹編著	2021年7月	978-4-909658-59-3	1900円
玉藻前アンソロジー 生之巻●朝里 樹編著	2022年10月	978-4-909658-83-8	1900円
玉藻前アンソロジー 石之巻●朝里 樹編著			近刊
その他			
中華オタク用語辞典●はちこ	2019年3月	978-4-909658-08-1	1800円
【呉公藻・馬岳梁版】太極拳講義●沈 剛・日高崇編著	2021年8月	978-4-909658-60-9	1300円
波多野華涯書簡集—門人濱口梧洞との往復書簡●岩田秀行・小田切マリ [私家版]	2019年3月	978-4-909658-11-1	品切れ

新刊

話題沸騰の本

土偶を読むを読む

望月昭秀編

ISBN978-4-86766-006-5 C0021
四六判・上製・432頁
定価：本体 2,000円（税別）

2023
刊行

「土偶の正体」は果たして本当に解き明かされたのか？

竹倉史人『土偶を読む』（晶文社）を大検証！

考古学の実証研究とイコノロジー研究を用いて、土偶は「植物」の姿をかたどった植物像という説を打ち出した本書は、NHKの朝の番組で大きく取り上げられ、養老孟司ほか、各界の著名人たちから絶賛の声が次々にあがり、ついに学術書を対象にした第43回サントリー学芸賞をも受賞。

『専門家』という鎧をまとった人々のいうことは時にあてにならず、『これは〇〇学ではない』と批判する"研究者"ほど、その『〇〇学』さえ怪しいのが相場である。『専門知』への挑戦も、本書の問題提起の中核をなしている（佐伯順子）と評された。

しかし、このような世間一般の評価と対照的に、『土偶を読む』は考古学界ではほとんど評価されていない。それは何故なのか。その理由と、『土偶を読む』で主張される「土偶の正体」、それに至る論証をていねいに検証する。

考古学の研究者たちは、今、何を研究し、何がわかって、何がわからないのか。専門家の役割とは一体なんなのか、専門知とはどこにあるのか。『土偶を読む』を検証・批判することで、さまざまな問題が見えてくる。本書は、縄文研究の現在位置を俯瞰し、土偶を読み、縄文時代を読む書でもある。

執筆は、望月昭秀、金子昭彦、小久保拓也、佐々木由香、菅豊、白鳥兄弟、松井実、山科哲、山田康弘、吉田泰幸。

【『土偶を読む』の検証は、たとえば雪かきに近い作業だ。本書を読み終える頃には少しだけその道が歩きやすくなっていることを願う。雪かきは重労働だ。しかし誰かがやらねばならない。（望月昭秀）... はじめにより】

【目次】

はじめに

はたして本当に土偶の正体は解明されたのか？

検証 土偶を読む（望月昭秀）

「土偶とは何か？」の研究史（白鳥兄弟）

1 本稿の目的と内容

1-1 土偶研究の「通説」

1-2 本稿の内容

2-1 第1期 明治期◎ 1868~1912年

2-2 第2期 大正~昭和戦中期◎ 1912~1945年

2-3 第3期 昭和戦後期◎ 1946~1988年

2-4 第4期 平成期以降◎ 1989~2020年

3 まとめ

〈インタビュー〉今、縄文研究は？（山田康弘）

物語の語り手を絶対に信用するな。だが私たちは信用してしまう（松井実）

土偶は変化する。——合掌・「中空」土偶→遮光器土偶→結髪 / 刺突文土偶の型式編年（金子昭彦）

植物と土偶を巡る考古対談（佐々木由香・小久保拓也・山科哲）

考古学・人類学の関係史と『土偶を読む』（吉田泰幸）

実験：「ハート形土偶サトイモ説」（望月昭秀）

知の「鑑定人」——専門知批判は専門知否定であってはならない（菅豊）

はじめに

考古学者たちの冷たいあしらい

『土偶を読む』の評価にあられる専門知への疑念

専門家が言うことはあてにならない

パブリック・アーケオロジーの知見

考古学者が『土偶を読む』に向き合なかつたいくつかの理由

知の「品質管理」

まとめ—「ポスト真実時代」の専門知の役割

